

# MICA モデムのステータスおよび切断理由

## 内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[モデム ステートの判別](#)

[切断理由の特定](#)

[モデム コールレコード](#)

[AAA アカウンティング ログ](#)

[show modem operational-status コマンドおよび show modem log コマンド](#)

[切断理由コードの形式](#)

[MICAモデムのステータス](#)

[MICA モデムの接続切断理由](#)

[切断理由：タイプ](#)

[関連情報](#)

## 概要

ここでは、Cisco Modem ISDN channel aggregation (MICA)モデムによって出力されるコールの切断理由コードについて詳しく説明します。

注： この文書には、V.90、V.44、V.42bis、V.34など、ITU標準で定義されている多くの用語が含まれています。これらの用語の詳細については、該当する[ITU-T標準を参照してください](#)。このドキュメントでは、ITU-T規格で指定されている用語については説明しません。

## 前提条件

### 要件

このドキュメントの読者は、次の点に注意してください。

MICA Domain Specific Parts (DSP)を使用するコールがクリアまたは切断されると、MICAにより切断理由が報告されます。これにより、正常に切断されたかどうかを判断できます。正常に切断されなかった場合には、切断理由から、考えられる障害を追跡できます。モデムは、クライアントの切断、回線エラー、NAS (ネットワークアクセスサーバ) のコール切断など、さまざまな要因によって切断されます。通常、接続の一端のDTE (クライアントモデムまたはNAS) がシャットダウンを要求すると、コールは切断されます。このような正常な切断の場合には、モデムエラーまたは伝送エラーが原因ではないことが示されます。切断理由が正常かどうかを判断する方法については、汎用モデムおよびNAS回線の品質の概要を参照してください。

## 使用するコンポーネント

MICAモデムを使用するアクセスサーバは、次のとおりです。

- Cisco 3600 シリーズ ルータ
- AS5200
- AS5300
- AS5800

このマニュアルの情報は、特定のラボ環境に置かれたデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。実稼動中のネットワークで作業をしている場合、実際にコマンドを使用する前に、その潜在的な影響について理解しておく必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、「[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)」を参照してください。

## モデム ステートの判別

MICAモデムの現在のステートを判別するには、`show modem log slot/port` コマンドを使用します。ログ出力は、古いエントリから順番に表示されます。したがって、ログの最後のモデム ステート（変更）イベントが最新のMICAモデム ステートです。次の出力例では、モデムの状態がアイドル状態であることを示しています。これは、`00:00:28`というModem Stateイベントで示されています。MICAモデムの状態の詳細については、[MICA Modem States](#)表を参照してください。

```
maui-nas-02#show modem log 1/0
Modem 1/0 Events Log:
 00:03:33:Startup event:MICA Hex modem (Managed)
      Modem firmware = 2.7.3.0
  !--- This modem is using portware 2.7.3.0 00:03:33:RS232 event: noRTS, noDTR, CTS, noDCD ...
... !--- This output was removed for brevity. ... 00:00:28:Modem State event: State: Terminate
00:00:28:RS232 event: noRTS, DTR, CTS, noDCD 00:00:28:RS232 event: RTS, DTR, CTS, noDCD
00:00:28:Modem State event:
      State: Idle
  !--- The last modem state event !--- This indicates that the modem is in state Idle
```

## 切断理由の特定

モデム接続が終了すると、NASにより2つの切断理由が報告されます。DTE(IOS)の理由とDCE(MICA)の理由です。これらの切断理由は、次の3つの方法によって確認できます。

1. モデム コール レコード：これらは、IOS®ソフトウェアとMICAモデムの両方の切断理由を報告します。
2. AAAアカウントティング ログ：IOSソフトウェアの切断理由だけが含まれています。
3. IOSコマンド：`show modem operational-status` コマンドおよび `show modem log` コマンドで、MICAモデムの切断理由を表示できます。

## モデム コール レコード

モデムコールレコード（MCR）には、特定の接続に関するIOSとモデムの切断理由が表示されま

す。MCRは、各コールの終了中に、NASによってsyslogサーバに送信されます。モデムコールレコードがサポートされるのは、Cisco IOSソフトウェア リリース11.3AAおよび12.0T以降で、modem call-record terse コマンドを使用して (NAS上で) アクティブに設定します。モデムコールレコードの使用の詳細は、Using Syslog, NTP, and Modem Call Records to Isolate and Troubleshoot Faultsを参照してください。

次のモデムコールレコードの例で、disc(radius)に示されているIOSの切断理由はLost Carrier/Lost Carrierです。また、disc(modem)に示されているモデムの切断理由は、次のとおりです。

```
A220 Rx (line to host) data flushing - not OK/EC condition - locally detected/received
DISC frame -- normal LAPM termination
```

モデム切断理由の詳細については、MICAモデムの切断理由の表を参照してください。

```
*May 31 18:11:09.558: %CALLRECORD-3-MICA_TERSE_CALL_REC: DS0 slot/contr/chan=2/0/18,
slot/port=1/29, call_id=378, userid=cisco, ip=0.0.0.0, calling=5205554099,
called=4085553932, std=V.90, prot=LAP-M, comp=V.42bis both, init-rx/tx b-rate=26400/41333,
finl-rx/TX brate=28800/41333, rbs=0, d-pad=6.0 dB, retr=1, sq=4, snr=29, rx/TX
chars=93501/94046,
bad=5, rx/TX ec=1612/732, bad=0, time=337, finl-state=Steady,
disc(radius)=Lost Carrier/Lost Carrier, disc(modem)=A220 Rx (line to host)
data flushing - not OK/EC condition - locally detected/received
DISC frame -- normal LAPM termination
```

## [AAA アカウンティング ログ](#)

AAA アカウンティング ログでも、IOSの切断理由を判別できます。次のAAA sqlクエリの例には、radiusの切断理由が含まれています。

```
SQL> select * from cs_accounting_log where blob_data like '%rad_dial%';
```

```
LOG_ID BLOB_ORDINAL BLOB_DATA
```

```
-----
172.22.87.3 rad_dial Async20 65004 stop server=danvers time=17:36:33
date=04/17/2000 task_id=40 timezone=CST service=ppp protocol=ip
addr=172.22.83.12 disc-cause=4 disc-cause-ext=1021 pre-bytes-in=132
pre-bytes-out=139 pre-paks-in=5 pre-paks-out=7 bytes_i
```

上記の例の切断コード(disc-cause=4)は、切断理由がIdle Time-outの時間切れであることを示しています。

注：AAAアカウンティングログにMICA切断理由が表示されないため、このドキュメントで説明する表はRADIUS切断理由の解釈には使用できません。

0 - 基本パラメータが不十分 1 - 情報コンテンツの未定義または未提供 5 - ARQコンディションおよび信号不一致 6 - タイマのタイムアウト ... その他のシーケンス エラー クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定義クラス

## [show modem operational-status コマンドおよび show modem log コマンド](#)

IOSの show modem operational-status slot/port コマンドおよび show modem log slot/port コマンドを使用して、MICAモデムの切断理由を表示することができます。

これらのコマンドの出力には、接続が終了した理由、および現在の接続が正常に行われなかった理由が示されます。各種の切断タイプの詳細については、以降の切断理由の説明を参照してください。

```
as5300-2#show modem operational-status 1/1
Modem(1/1) Operational-Status:

Parameter #0 Disconnect Reason Info: (0xDF03)
  Type (=6 ): TX (host to line) data flushing - OK
  Class (=31): Requested by host
  Reason (=3 ): DTR dropped
! --- This output was shortened for brevity.
```

**show modem log slot/port**には、**切断理由**も表示されず

```
maui-nas-02#show modem log 1/0
Modem 1/0 Events Log:
00:03:33:Startup event:MICA Hex modem (Managed)
  Modem firmware = 2.7.3.0
...
...! --- This output was removed for brevity. ... 00:00:26:End Connect event: Call Timer:
124 secs Disconnect Reason Info: (0x8220)
  Type (=4 ): Rx (line to host) data flushing - OK
  Class (=2 ): EC condition - locally detected
  Reason (=32): received DISC frame -- normal LAPM termination
```

## 切断理由コードの形式

切断理由は、4桁の16進数で表示されます。下位3桁の16進数が、切断理由を示しています。最上位の16進数は通常、切断理由のタイプ、または切断理由の発生状況を示します。これらのオプションについては[接続解除の原因のセクションを参照してください:タイプ](#)。たとえば、切断理由コードが0xWXYZの場合、0xXYZが切断理由を示し、0xWが切断理由の発生状況を示しています。

上記の例では、0xF03および0x220 が切断理由を示し、0xDおよび0x8が切断理由の発生状況を示しています。MICA切断理由の定義については、MICAモデムの切断理由を参照してください。

MICAモデムの運用の詳細については、Cisco AS5x00 Case Study for Basic IP Modem Servicesに含まれているVerifying Modem PerformanceおよびModem Management Operationsを参照してください。

## MICAモデムのステータス

都道府県	説明
IDLE(#0)	モデム セッションは現在、非アクティブです。DSPから、すべての動作がシャットダウンされたという確認を受信すると、TERMINATINGステートがIDLEステートに変わります。
CALL SETUP	モデムの信号プロセッサが、T1、multiple frequency (MF)、dual tone multi-frequency (DTMF)、R1、R2、およびコール プログレス信号を受信・生成できるよう準備中です。モデムは、ホ

P(#5)	ストから、LINK_TERMINATE、SOFTWARE_RESET、または INITIATE_LINKメッセージを受信するまで、CALL_SETUPステートを維持します。
CONNECT(#10)	ホストから開始コマンドを受信すると、CALL_SETUP(#5) ステートがCONNECTステートに変わります。着信モードでは、モデムセッションは開始されますが、アンサーバックトーンはまだ生成されていない状態です。発信モードでは、モデムセッションは開始されますが、アンサーバックトーンはまだ検出されていない状態です。
リンク(#15)	アンサーバックトーンを検出するか(発信側)、またはアンサーバックトーンが生成されると(着信側)、CONNECTステートがLINKステートに変わります。着信モードでは、モデムセッションにより、回線にアンサーバックトーンが送信されます。発信モードでは、モデムセッションにより、最小限の(設定可能な)アンサーバックトーンが検出されます。これによりリモートピアが確認されます。
QC(#16)	Quick Connect (QC)がイネーブルで、QCAシーケンスを受信するか(発信側)、またはQCAシーケンスを送信すると(着信モード)、LINKステートまたはV.8 bis ExchangeステートがQCステートに変わります。
TRAINUP(#20)	<p>モデムセッションが、リンクで使用する(設定済みの)物理変調方式のネゴシエーションを実行中です。次の状況が発生すると、LINKステートがTRAINUPステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アンサーバックトーン終了の検出(発信側)</li> <li>• アンサーバックトーンの送信完了(着信側)</li> </ul>
EC_NEGOTIATING(#25)	<p>モデムセッションが、リンクで使用するエラー訂正およびデータ圧縮方式のネゴシエーションを実行中です。両モデムの設定が一致すると(両モデムに共通する性能および設定)、ネゴシエーションが正常に完了します。共通設定が見つからない場合、モデムは切断されるか、non-error connectedセッションを開始します。物理変調方式のネゴシエーションが正常に完了すると、TRAINUPステートがEC_NEGOTIATINGステートに変わります。</p>
STEADY_STATE(#30)	<p>モデムセッションで、リンク上にデータを渡すことができます。次の状況が発生すると、EC_NEGOTIATINGステートがSTEADY_STATEステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (設定済みの)プロトコルネゴシエーションが正常完了した場合</li> <li>• 物理リンクの再ネゴシエーションが正常に完了した場合、STEADY_STATE_RETRAININGステートおよびSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステート</li> </ul>

	<p>から以降します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ファックスモードで、この状態は、T30エンジンが動作していることを意味します。Faxコール中に、STEADY_STATEステートとSTEADY_STATE_ESCAPEステートが切り替わります。これは、ファックス(T30)セッションのさまざまなフェーズを通過するファックスコールを表します。</li> </ul>
STEADY_STATE_RETRAINING (#35)	<p>モデムセッションがretrainingを実行中です。次の状況が発生すると、STEADY_STATEステートまたはSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステートが、STEADY_STATE_RETRAININGステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Host_Link_Control - [Retrain]コマンドの実行</li> <li>• (設定可能な) 内部スレッシュホールドの超過</li> </ul>
STEADY_STATE_SHIFTINGSPEED (#40)	<p>モデムセッションの速度変更中です。次の状況が発生すると、STEADY_STATEステートがSTEADY_STATE_SHIFTINGSPEEDステートに変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Host_Link_Control - [Fallback, Fall-Forward]コマンドの実行</li> <li>• (設定可能な) 内部スレッシュホールドの超過</li> </ul>
STEADY_STATE_ESCAPE (#45)	<p>モデムはまだリモートピアに接続していますが、ホストインターフェイスはATコマンドモードです。このステートは、有効なHayesエスケープシーケンスを受信すると開始されます。Faxモードでは、T30エンジンがホストからATコマンドを受信していることを意味します。Faxコールの情報は、STEADY_STATE (#30) ステートを参照してください。</p>
終端 (#50)	<p>モデムセッションが、ユーザデータの消去、およびDigital Signal Processor(DSP)のクリアダウンを実行中です。Software_resetでは、逐次消去は行われずに、DSPがリセットされます。次のいずれかの状況が発生すると、TERMINATEステートが開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• LINK_TERMINATE、またはホストからの</li> </ul>

	<p>Software_reset</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DSPからのキャリア損失</li> <li>• DTEからのATHコマンドの受信</li> <li>• 回線からのDISC/LD (disconnect)エラー訂正フレームの受信</li> <li>• ( 設定可能な ) 各種内部スレッシュホールドの超過</li> </ul>
保留中(#55)	<p>モデム セッションは保留中です。データはリンクに渡されていません。Modem on Hold (MoH)要求メッセージ(MHReq)を受信すると、STEADYステートがOn Holdステートに変わります。modem on holdがイネーブルの場合(Register S62)、モデムは要求を許可し、無音またRTの検出時にアンサーバックトーン(ANSam)を送信するために、Modem on Hold Acknowledgment (MHack)シーケンスを送信します。Call Menu (CM)信号(for V.8)またはQuick Connect Acknowledge-QCA (QC - Register S63)シーケンスが検出されると、モデムのOn-Holdステートは終了し、V.8またはQC (Register S63)勧告に基づいて、開始シーケンスに応答します。On-Holdタイムアウトの時間内に開始シーケンスが検出されなかった場合には、On-Holdステートは終了し、接続が切断されます。modem on holdがディセーブルの場合、モデムはMHnackを送信します。MHnack送信後にMHcdaが検出されると、モデムは接続を切断します。MHnack送信後にMHfrrが検出されると、モデムはアンサーバックトーンを送信し、リモート モデムからのCM (V.8)またはQCA (QC - Register S63) シーケンスを待ち受けます。Modem on Holdの詳細については、<a href="#">ITU-T V.92仕様を参照してください</a>。</p> <p>注：MICAステート#55は、以前はVOICEステートでしたが、現在はポートウェアのバージョン2.9.1.0以降から削除されています。</p>
V.8 bis EXCH ANGE(#71)	<p>CReを検出するか(発信側)、またはCReを開始すると(着信側)、CONNECTステートから、このステートに変わります。着信モード：モデム セッションは、回線にCapability Request-autoanswer (CRe)を送信中です。発信モード：モデムセッションがCapability Request-autoanswer(CRe)を検出しました。これは、リモートピアがあることを示します。</p>
RANGING(#72)	<p>Round Trip Delay Estimate(RTDEd)が開始されると、LINKまたはQC (Register S63) ステートから、RANGINGステートに変わります。このステートになるのは、V.32標準以上です。</p>
RANGING SHORT SH	<p>Round Trip Delay Estimate-Digital Modem (RTDEd)が開始されると、QC (Register S63)ステートからRANGING SHORTステートに変わります。</p>

OR T(# 73)	
HD TR AIN (#7 4)	アダプト フィルタ トレーニングが開始されると、RANGINGまたはRANGING SHORTステートからHD TRAIN (Half Duplex Trainup)ステートに変わります。このステートになるのは、V.22bis標準以上です。
ST EA DY _ST AT E_P IAF S_ RE SY NC( #80 )	STEADY_STATE_PIAFS_RESYNCステートは、Personal Handyphone Internet Access Forum Standard (PIAFS)コールが同期を失い、再同期化を実行していることを示します。
ST EA DY _ST AT E_P IAF S_ PE ED SHI FT( #85 )	STEADY_STATE_PIAFS_SPEEDSHIFTステートは、PIAFSコールが速度変更をネゴシエート中であることを示します。これは瞬間的な移行ステートです。MICAでこのステートが保持されることはありません。再同期化の結果、速度変更が行われると、MICAはSTEADY_STATE_PIAFS_RESYNCステートからこのステートに変わり、さらにSTEADY_STATEステートになります。再同期化の結果、速度変更が行われなかった場合は、再同期化の完了後、STEADY_STATE_PIAFS_RESYNCステートから直接、STEADY_STATEステートになります。

## MICA モデムの接続切断理由

MICAモデムの切断理由は、4桁の16進数で表示されます。下位3桁の16進数は、特定の切断理由を示します。最上位の16進数は、切断理由のタイプ、または切断理由の発生状況を示します。上記の例では、接続解除コードが16進数の0xDF03で、0xF03は切断理由を識別し、0xDは切断理由が発生した場合を示します([切断理由：タイプ](#))

以下に示す切断理由には、切断タイプは含まれていません。そのため、表示された切断理由の最も左側の16進数を除き、残りの3桁について、下記の表の説明を参照してください。前述の例では、0xF03を参照します。

注：このドキュメントでは、ホストモデムはCiscoアクセスサーバのMICAモデムで、クライアントモデムはリモートデバイスモデム（クライアントPCモデムなど）です。



断 理 由 コ ド	
0	切断は発生していません。ポートウェアのロード直後、またはコール実行中にSTEADYステートになる前に切断理由を照会すると、このコードが表示されます。
一般的な切断理由(クラス0)	
0 x 00 0 0 1	Cisco IOSが何らかの理由により、突然コールを終了しました。たとえば、コールが送受信されている物理リンク上でレイヤ1がダウンした場合などです。
0 x 00 0 2	Error Correction (EC)レイヤによる終了
0 x 00 0 3	Microcom Network Protocol 5 ( MNP5 ) 圧縮解凍タスクが、データストリームで不正トークンを受信しました。この切断理由はデータモードで発生します(0x3003)。通常は、モデム、または相手側の圧縮解凍/エラー訂正のいずれかで、論理エラーが発生しています。(偶発的な回線ヒットまたはRAMメモリエラーの可能性もあります)
20 x 40 0 64	V.42bis または V.44 圧縮解凍タスクが、データストリームで不正トークンを受信しました。この切断理由は、データモードで発生します(0x4004)。通常は、モデム、または相手側の圧縮解凍/エラー訂正のいずれかで、論理エラーが発生しています。(偶発的な回線ヒットまたはRAMメモリエラーの可能性もあります) V.44の場合は、このコードに、診断リンク情報フィールド インデックス119(デバッグ ツールとして使用される8バイト情報フィールド)が付加されます。
0 x 00 0 5	MICA ソフトウェア エラーこの切断理由のエラーコードは0x4005です。不良なコプロセッサ状態変数を示すMICAソフトウェアエラーが発生しました。
60 x 0 0 6	ローカルモデムでATHコマンドが検出されました。この切断理由は、データモード ( 0xC006および 0xE006 ) で発生します。ローカル モデム ( MICA ) が、ATH (Hangup)コマンドを検出しました。たとえば、IOSからダイヤルアウトしたコールが接続された後で、IOS DTEインターフェイスがインバンドATHコマンドによりコールを取り消した場合などです。
3 x	ATダイアルコマンドが中止されました。ATダイアルコマンドがany key abortコマンドによって中止されま

0 0 7	<p>した。たとえば、ホストのモデムがコールを発信しま す。接続確立中に、STEADY STATEの前に任意のキ ーを押すと、ATダイヤルコマンドが中止されます。</p>
0 x 30 0 8	<p>コール接続完了の時間制限超過。この切断のために <a href="#">S7タイマー (ダイヤル後キャリア待ち) が期限切れ になる</a>ことに注意してください。この切断理由は、コ ールセットアップ中に発生します(0x6008)。ホスト モデムの retraining により、接続確立に時間がかかり すぎています。原因は次のとおりです。レイヤ1規格 の選択 (ネゴシエート) が困難 (たとえば、切断理由 0x6102で戻る前にコールを中断する)、またはレイ ヤ1とレイヤ2の組み合わせによる確立に時間がかかり すぎる。たとえば、エラー訂正のネゴシエーションに retraining 以上の時間がかかったり、クライアント モ デムがアグレッシブレート (クライアント モデムの レシーバがサポート不可能な速度) で接続を試み、ビ ットエラーが発生した場合です。この切断タイプは 、CSRとしてカウントされます。この切断は、着信モ デムがチャンネルからのトーンを検出できない (発信側 がモデムではない) 場合にも実行されます。</p>
0 x 0 0 9	<p>DSPがリセットされました (コマンド、内部または自 発的)。この切断理由のエラーコードは0x4009です 。ホストモデム内のDSPは、コントロールプロセッサ (CP)またはシグナルプロセッサ(SP)によってリセット されました。CPは、CPからSPへのメール メッセー ジに対して確認応答が戻されない場合、DSPをリセッ トします。SPは、内部不整合エラーが発生すると、 自動的にリセットされます。</p>
0 4x 0 60 A	<p>不正なSTEPUPコードワードを受信しました。 C2 (現在のコードワードサイズ) の値がN1(最大コー ドワードサイズ: ネゴシエート)され、V.44および V.42bisでのみ有効です。</p>
0 4x 0 60 B	<p>不正なV.42bisコードワードの受信。コードワードの 受け取りをC1 (次の空のデイクシヨナリエントリ ) と等しく、V.42bisで有効であることを指定します 。(コードワード=C1の受信はV.42bisでは無効です が、V.44では有効です)。</p>
0 4x 0 60 C	<p>V.44またはV.42bisで不正トークン (大きすぎる) を 受信しました。これは、受信したV.42bisまたは V.44コードワードサイズがネゴシエートされた最大値 を超えたことを意味します。常にC1(次の空のデイク シヨナリエントリ)以上であるコードワードを受信し たことを意味します。この切断理由は、V.44および V.42bisに適用されます。</p>
0 4x 0 60 D	<p>V.44またはV.42bis予約済みコマンドコードの受信。 予約されたコマンドコードの受信を指定します。 V.44およびV.42bisで有効です。</p>
40	<p>V.42bisまたはV.44は、次の空の辞書エントリより大</p>

60	X 0 E	きいコードワードを受信しました。V.44不正STEPUPキャラクタを受信しました。C5値(序数サイズ)が8を超えるSETUP制御コードを受信したことを意味します。この切断理由は、V.44だけに適用されます。
60	4X 0 F	V.44 Rxディクショナリがいっぱいです。Rxノードツリーがいっぱいになった場合に辞書リセットされないコードワードを受信することを指定します。V.44でのみ有効です。
61	4X 0 0	V.44 Rx履歴がいっぱいです。Rx履歴がいっぱいになった場合に辞書リセットされないコードワードの受信を指定します。V.44でのみ有効です。
61	4X 0 1	V.44/V.42bisの不正なRx文字列サイズを超過しました。ネゴシエートされた文字列の最大サイズを超えるコードワードの受信を指定します。この切断理由は、V.44およびV.42bisに適用されます。
61	4X 0 2	V.44ネゴシエーションエラーV.44ネゴシエーションエラーが発生しました。V.44では、このコードは診断リンク情報フィールドインデックス119で補完される。診断リンク情報フィールドインデックスは、デバッグ用のツールとして使用される8バイトの情報フィールドである。
61	4X 0 3	V.44圧縮エラーV.44圧縮エラーが発生しました。V.44では、このコードは診断リンク情報フィールドインデックス119で補完される。診断リンク情報フィールドインデックスは、デバッグ用のツールとして使用される8バイトの情報フィールドである。
<b>DSPコンディション レポート (クラス1)</b>		
	0 X 1 X X	SPE により報告された DSP コンディション
30	41 X 0 50	DSPがキャリア信号を損失しました。MICAがクライアント モデムのキャリア廃棄を検出しました。この切断理由は、コール セットアップ中およびデータモードで発生します(0x6100、0x8100、および0xA100)。MICA DSPのキャリア検出が停止してから、Register S10(キャリア損失後の切断遅延)に指定された値以上の時間が経過しました。伝送パスが使用不可であるか、クライアントが送信を停止したことを意味します。レイヤ2プロトコル(V.42およびV.42bis)が有効な場合、これは異常な切断です。この切断理由は、ECネゴシエーション中(データモードになる前)に発生することもあります。レイヤ1のネゴシエーションが正常終了した後(キャリア信号の検出後)、レイヤ2プロトコル(V.42および

	<p>V.42bis ) の確立中に切断される場合です。一般的には、接続が確立される前にユーザがコールを中断することが原因です。誤ってダイヤルしたり、開始後に取り消したり、(レイヤ1ネゴシエーションで何度も retraining が行われ) 接続するまでに時間がかかりすぎてクライアント アプリケーションがタイムアウトした場合も、コールは切断されます。これらの障害は、CSRとしてカウントされます。正常なデータモードでも、クライアントが突然キャリアをドロップすれば、キャリア損失が発生します。一般的には、ネゴシエーションに失敗したり、クライアント モデム側で不正な切断(クライアント モデムが単純にキャリアをドロップする)が行われることが原因です。リンクが突然ドロップされ(ネットワーク エラー)、クライアント モデムの電源がシャットオフされた場合もコールは切断されます。また、DTRドロップについてレイヤ1およびレイヤ2のクリアダウン プロトコルがサポートされない安価なクライアント モデムでも、キャリア損失が発生します。ただし、クライアント モデムが多数ある場合には、正常な切断とみなされています。クライアントモデムがダーティ切断を行うと、0xA103、0xA100、および0xDF06の間に競合状態が存在します。ホストモデム内のDSPがキャリア損失を検出すると、0xA100が0になります。DSPがキャリア損失を検出せず、<a href="#">Register S40</a>の制限に達するまで再トレインを行うと、0xA103が優先されます。ネットワークがコール切断を検出し、ルータに切断を通知した場合には、0xDF06が優先されます。この切断理由は、ホスト モデムがデータモードの場合には、CSRとしてカウントされません。</p>
<p>0 x 31 0 1</p>	<p>コール障害の発生時に、Signal Processor (SP)が Answer Back Tone (ABT)検出フェーズだった場合、この切断理由が発生します。</p>
<p>0 x 31 0 2</p>	<p>モデムのトレインアップ中に、変調または回線の不良によりコールが失敗しました。この切断理由は、コールセットアップ(0x6102)中に発生します。これは、従来のRockwell独自の変調(K56Plus、V.FCなど)など、サポートされていない変調をネゴシエートしようとする試みを示している可能性があります。また、回線不良、インパルス ノイズ、トレーニング中断、変調パラメータの不一致、レイヤ 1 標準を正しく選択できないなどの要因による DSP トレインアップ障害も原因として考えられます。この切断タイプは、CSRとしてカウントされます。</p>
<p>0 4x 1 50 3</p>	<p>retraining または速度変更の連続試行回数が多すぎます。再確立の制限は<a href="#">Register S40</a>で指定されます。この切断理由は、コールセットアップおよびデータモード(0x6103、0x8103、および0xA103)で発生します。コール進行中の retraining の回数が多すぎると、データレートが低下して、コールが無効になります。</p>

( 接続途中でのTelco回線業者によるコールドロップなどにより ) クライアント モデムがクリアダウンプロトコルを完了できなかったり、MICAが retraining によりコール回復を試みたことが原因です。retraining の制限値に達すると ( 制限値Register S40で変更可能 )、MICAはコールをドロップし、この切断理由を報告します。状況によっては ( チャネライズドT1/E1 )、このタイプの切断は通常のSTEADY状態の切断と見なされることがあります。あるいは、単にMICAが復旧できない回線エラーによる汚れた切断の結果である可能性があります。コールは確立済みなので、この切断タイプはCSRとしてカウントされません。クライアント モデムが高い初期接続レートを要求し、コールを維持できない場合 ( 旧 USRoboticsクライアント モデムなど ) には、ECネゴシエーション中にこの切断理由が発生します。この切断タイプは、CSRとしてカウントされません。クライアントモデムが汚れた切断を行うと、0xA103、0xA100、0xDF06の間に競合状態が存在します。ホストモデム内のデジタル信号プロセッサ(DSP)がキャリア損失を検出すると、0xA10000000000。DSPがキャリア損失を検出せず、Register S40 制限まで retraining が行われた場合には、0xA103が優先されます。ネットワークがコール切断を検出し、ルータに切断を通知した場合には、0xDF06が優先されます。この切断理由は、ホスト モデムがデータモードの場合には、CSRとしてカウントされません。

アンサーバックトーン ( ABT ) の終了を検知。 V.34 トレーニング中のネゴシエーション障害または超過ノイズ。ホスト モデムが応答し、V.8bis および位相反転を伴う変調 2100 Hz アンサーバックトーン ( ABT ) が送出されましたが、トレインアップシーケンス中に超過ノイズが発生しました。発信モデムから着信モデムまでの一方向または両方向のパスにエラーが発生していないか確認してください。ダイヤルアップの PSTN ( 公衆交換電話網 ) に 1 秒以上の遅延があり、モデムがエコーキャンセラをトレインアップできない場合も、同様の状態になります。その他、次のような原因が考えられます。

- 実Txパワーレベルが不正で、リモート側でトーンが処理されない
- V.34 トレーニング中に Phase III および IV で過度のノイズが発生した
- オペレータ エラー
- V.34 トレーニング中のネットワーク妨害 ( 他の内線電話の使用など )

この切断タイプは、CSRとしてカウントされます。

SS7/COT(Continuity Test)操作が正常に完了しました。この切断理由は、コールセットアップ(0x6105)中に発生します。SS7/COT (持続テスト)が正常に完了しました。

0 x 3 1 0 6	SS7/COT ( 持続テスト ) が失敗しました。トーンオン待機中にT8/T24タイムアウトが発生しました。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します ( 0x6106 )。トーン オンの待機中にT8/T24タイムアウトが発生したため、SS7/COT (持続テスト)に失敗しました。
0 x 3 1 0 7	SS7/COT ( 持続テスト ) が失敗しました。T8/T24タイムアウトでトーンオフを待機中。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します(0x6107)。トーン オフの待機中にT8/T24タイムアウトが発生したため、SS7/COT (持続テスト)に失敗しました。
0 x 4 1 0 8	MICAによるModem On Hold (MOH)クリアダウン。クライアント モデムからのModem On Hold Cleardown要求を受信しました。V.92 に定義されているクリアダウン理由は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 着信コールによるクリアダウン</li> <li>• 発信コールによるクリアダウン</li> <li>• その他の理由によるクリアダウン</li> </ul>
0 x 4 1 0 9	Modem On Hold (MOH)タイムアウトの発生
<b>ローカルECコンディション(クラス2)</b>	
0 x 2 x x	ローカルECコンディション
0 x 3 2 0 1	ネゴシエーション中にLR (Link Request)フレームを受信しませんでした。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します(0x6201)。エラー訂正のネゴシエーション中に、ホスト モデムがLRフレームをまったく受信しなかったことを意味します。ピア モデムがV.42のMNPをサポートしていない可能性があります。
0 x 3 2 0 2	不正パラメータ(PARAM1)のLRフレームを受信しました。受信したMNP Link Request(LR)フレームに不正または予期しないPARAM1が含まれていました。PARAM1の詳細については、V.42仕様を参照してください。
0 x 3 2 0 3	互換性のないLR (Link Request)フレームを受信しました。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します(0x6203)。受信した MNP LR フレームは、ホスト モデムの EC 設定と一致しません。
0 4 x 2 5 0	連続再送信が多すぎます。この切断理由は、コール セットアップ中およびデータモードで発生します (0x8204、0xA204、および0x6204)。原因として回線上のノイズが考えられます。たとえば、ホスト モデ

4	<p>ムからクライアント モデムに送信されたデータが、回線上のノイズにより、クライアント側で不正に受信されたり、まったく受信されない場合です。そのため、ノイズ過多により、再送信回数が増加します。クライアント モデムの切断を、MICAモデムが認識していない場合も、この切断理由が発生します。クライアント モデムの切断後も、ホスト モデムは再送信を続行するからです。コールがエラー圧縮(EC)プロトコル (Link Access Procedure for Modems(LAPM)または Microcom Networking Protocol(MNP))で接続されると、MICAがクライアントモデムにフレームを送信できないことがあります。クライアント モデムはMICAの初回送信に応答できず、S19 (Error Correction Retransmission Limit)ポール ( デフォルトは12 ) に失敗するので、MICAはコールを切断します。原因として、伝送パスのキャリア品質が低下しても、クライアントがダウンシフトしていないことが考えられます。クライアントの EC エンジンに問題があることもあります ( Windows の応答停止時に Winmodem システムで発生 )。</p>
6x 70 5	<p>無動作タイムアウトにより、MNP Link Disconnect ( LD ) が送信されました。この切断理由は、データ モードで発生します(0xC205および 0xE205)。ホスト モデムからクライアント モデムに無動作タイムアウトの発生を示すLDフレームが送信されました。</p>
4x 50 6	<p>EC プロトコル エラーこの切断理由は、データ モードで発生します(0x8206および0xA206)。一般的なプロトコル エラーです。LAPM または MNP EC プロトコル エラーが発生したことを意味します。</p>
32 1 0	<p>EC フォールバック プロトコルを使用できません。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します (0x6210)。エラー訂正ネゴシエーションに失敗しました。エラー訂正フォールバック プロトコルを使用できないので、コールは終了します。<a href="#">使用可能なフォールバック プロトコルは、S-register S25 (link protocol fallback)に定義されています。</a> オプションは、非同期フレーミング、同期フレーミング、および切断 ( ハングアップ ) です。</p>
32 1 1	<p>ネゴシエーション中に eXchange Identification ( XID ) フレームを受信しませんでした。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します(0x6211)。エラー訂正ネゴシエーション中に、ホスト モデムがXIDフレームをまったく受信しなかったことを意味します。クライアント モデムが V.42 の LAPM をサポートしていない可能性があります。</p>
32 1 2	<p>ローカル設定と一致しない XID フレームを受信しました。この切断理由は、コール セットアップ中に発生します(0x6212)。受信したXIDフレームが、ホスト モデムの設定と一致しません。たとえば、クライアント モデムが MNP5を指定したとき、ホスト モデムが</p>

	V.42およびV.42bisのみをサポートしている場合などです。
30 、x 42 、2 50	Disconnect ( DISC ) フレームを受信。これは正常なLAP-M 切断です。この切断理由は、コール セットアップ中およびデータモードで発生します(0x 6220、0x8220、 および0xA220)。 クライアントからの適正なクリアダウンにより、コールが正常に終了されました。(つまり、V.42切断パケットがクライアントモデムからNASモデムに送信されました)。 クライアント モデムは DTR を廃棄し、クリアダウン プロトコルを正常にネゴシエートしました。
30 、x 42 、2 51	受信した DM フレーム。ピアが切断されている可能性があります。この切断理由は、コール セットアップ中およびデータモードで発生します(0x6221、0x8221、 および0xA221)。 クライアント モデムが切断中であることを示しています。コール セットアップ中に、クライアント モデムがエラー訂正ネゴシエーションを放棄したことを意味します。
4x 、2 52 、2	不正シーケンス番号を受信この切断理由は、データモードで発生します ( 0x8222および0xA222 )。 ホスト モデムが、不正なシーケンス番号または確認応答番号の LAPM または MNP エラー訂正フレームを受信しました。ホスト モデムの切断中を示す LD または Frame Reject ( FRMR ) フレームが、クライアント モデムに送信されます。
4x 、2 52 、3	STEADYステートでSABMEフレームを受信この切断理由は、データモードで発生します(0x8223および0xA223)。 STEADY ステートでの LAPM エラー訂正プロトコルのエラーを示します。Frame Reject (FRMR)の受信により、クライアント モデムがリセットされた可能性があることを意味します。
4x 、2 52 、4	STEADY ステートで MNP XID フレームを受信この切断理由は、データモードで発生します(0x8224および0xA224)。 STEADY ステートでの LAPM エラー訂正プロトコルのエラーを示します。Frame Reject (FRMR)の受信により、クライアント モデムがリセットされた可能性があることを意味します。
4x 、2 52 、5	STEADY ステートで MNP LR フレームを受信しました。この切断理由は、データモードで発生します (0x8225および0xA225)。 STEADY ステートでの MNP エラー訂正プロトコルのエラーを示します。クライアント モデムがリセットされたことを意味します。
<b>PIAFSプロトコル特定コンディション (クラス2、続き)</b>	
3x 、2 43 、0	定義されたメッセージ最小長よりも短いメッセージを受信しました。
30 、x	未知の、またはサポートできないPIAFSフレームタイプを受信しました。これには、FI (主要フレームタイプ



2 43 1	イプ)、およびネゴシエート、同期、または制御クラス(サブタイプ)が含まれます。
3x 2 43 2	PIAFS Control Frame Identifier (CFI)が未知です。未知の、またはサポートできないクラスIDの制御フレームを受信しました。連続フレームおよびユーザフレームはサポートされず、既知の通知フレームは存在しないことに注意してください。
3x 2 43 3	PIAFS Communicationのネゴシエーションに失敗しました。初期同期後、通信パラメータのReq/Ackフレームが交換されます。パラメータが受け入れられなかったか、イニシエータがNAK ( 否定応答 ) 応答を検出しました。 注：MICAは、テスト目的でのみクライアント/イニシエータとして動作します
3x 2 43 4	PIAFS ARQのネゴシエーションに失敗しました。再同期後、ARQ要求(Req)/確認応答(Ack)フレームが交換されます。パラメータが受け入れられなかったか、イニシエータがNak応答を検出しました。 注：MICAは、テスト目的でのみクライアント/イニシエータとして動作します
3x 2 43 5	PIAFS Control Transfer Protocolの問題が検出されました。イニシエータが、ID、Class、およびSequenceが元のReq/Ntfと一致していないAck/Nak/Rspを受信しました。 注：MICAはテスト目的でクライアントまたはイニシエータとしてのみ動作できます
3x 2 43 6	この切断理由は、DataLinkRelease要求フレームの受信を意味するものではありません。切断理由なく、切断されたことを意味します。MICAはコールを切断中ですが、切断理由が検出されていません。
3x 2 43 7	PIAFS sync reception wait timer T001のタイムアウトです。このタイマは、sync-requestフレームが送信されると開始され、sync-receptionフレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は15秒です。
3x 2 43 8	PIAFS post-sync reception-transmission timer T002のタイムアウトです。このタイマは、sync-receptionフレームが送信されると開始され、sync-reception (コリジョン)または制御フレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は15秒です。
3x 2 43	PIAFS sync request wait timer T003のタイムアウトです。このタイマは、連続FCSエラーが検出されると開始され、有効なsync-requestフレームが検出されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポー

9	トがサーバ ( 応答モード ) として動作している、標準動作モードの場合です。デフォルト値は15秒です。
3x 2 43	PIAFS timer T101 expired:制御フレーム確認待機タイマー。このタイマは、制御フレーム要求/通知が送信されると開始され、フレームが確認されると停止します。このエラーが発生するのは、MICAポートがクライアントまたはイニシエータとして動作している場合、すなわちテスト中だけです。デフォルト値は10秒です。
3x 2 43 E	PIAFS:PIAFS : ネゴシエート範囲外のFBI (ACK sequence #)、または空でないデータフレームのあるFBI=0を受信しました。
3x 2 43 C	PIAFS:ネゴシエート範囲外のFFI (MSG sequence #)、またはFFI=0を受信しました。
3x 2 43 D	PIAFS:ネゴシエートされたデータウィンドウがRTF ( ラウンドトリップ遅延 ) 値を下回っています。Portwareはこのエラーをポストしないので、このエラーが表示されることはありません。
3x 2 43 E	PIAFS:メッセージのデータ長フィールドが大きすぎます。適正範囲は0-73です。
3x 2 43 F	PIAFS内部エラー。SREJコールによりエラーコードが戻されました。
3x 2 44 0	PIAFS一般プロトコル エラー。関連する切断理由のない一般的なエラーです。
3x 2 44 1	PIAFS:プロトコルネゴシエーションに失敗しました。両ステーションで、どのプロトコル ( Data Transfer Protocol Fixed Speed、DTP Variable Speed Type1 ) も一致しませんでした。DTP Variable Speed Type3、またはReal Time Protocolはサポートされません。
3x 2 44 2	PIAFS:PIAFS : 測定されたRTF(往復遅延)値が、定義 ( 許容 ) 範囲を超えています。

0 3x 2 44 3	PIAFS内部エラー。イベント ハンドラに未知のイベントがあります。スイッチ ステートメントはデフォルト値に戻ります。
0 3x 2 44 4	PIAFS 2.1速度変更中に、Signal Processor (SP)応答タイムアウトが発生しました。MICAのCPが、200ミリ秒以内に速度変更応答を受信しませんでした。
0 3x 2 44 5	MICAのCPが、CP/SP共有制御ストラクチャで矛盾する制御情報を検出しました。データ バッファの前後に、データ バッファ境界(0-63)を超えるオフセットが設定されている場合などです。
<b>相手からの不正MNP/LAPMプロトコル コマンドの受信 (クラス3)</b>	
0 4x 3 5x x	EC が不正コマンド コードを検出しました。下位2桁が、受信した未知コマンドです。応答として、MNP LDまたはLAP-M Frame Reject (FRMR)フレームが送信されます。
<b>LAPM 相手側からのMICAプロトコル エラーの指示 (クラス4)</b>	
0 4x 4 5x x	LAP-M FRMR フレームにより、クライアントから EC コンディションが指示されました。下位 2 桁が理由を示しています。
0 4x 4 50 1	LAPM : ピアから不正コマンドが報告されました。ホスト モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムから受信したエラー訂正フレームに、許可されないデータフィールド、または不正長 (Uフレーム) のデータフィールドが含まれていたことが報告されました。
0 4x 4 50 3	LAPM : ピアから、許可できない、または不正長 (Uフレーム) のデータ フィールドが報告されました。ホスト モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムがホスト モデムから受信したエラー訂正フレームに、許可されないデータフィールド、または不正長 (Uフレーム) のデータフィールドが含まれていたことが報告されました。
0 4x 4 50 4	LAPM : ピアから、Frame Check Sequence ( FCS ) は正常で、N401 ( V.42 の最大情報フィールド長 ) を超えているデータフィールド長が報告されました。NextPort モデムがクライアント モデムから FRMR フレームを受信しました。これにより、クライアント モデムが NextPort から受信したエラー訂正フレームに、最大オクテット数を超えている

	ため、Iフレーム、SREJフレーム、XIDフレーム、UIフレーム、またはTESTフレームの情報フィールド(N401)で伝送できないデータフィールドが含まれていたことが報告されました。ただし、フレームチェックシーケンスは正常です。
0 4x 4 50 8	LAPM : ピアから、不正受信シーケンス番号またはN(R)が報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからFRMRフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがホストモデムから受信したエラー訂正フレームに、不正な受信シーケンス番号が含まれていたことが報告されました。
<b>MNP相手側からの切断またはMICAプロトコルエラーの指示(クラス5)</b>	
0 4x 5 5x x	MNP LD フレームにより、クライアントから EC コンディションが指示されました。下位2桁が理由を示しています。
0 x 35 0 1	MNP : ピアが LR フレームを受信しませんでした。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがホストモデムからリンク要求をまったく受信していないことが報告されました。
0 x 35 0 2	MNP : ピアから、LRフレームに不正なパラメータ#1があることが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。受信したLDフレームは、クライアントモデムがホストモデムから受信したリンク要求フレームに、不正な(予期しない)PARAM1が含まれていることを示します。PARAM1の詳細は、V.42仕様を参照してください。
0 x 35 0 3	MNP : ピアから、設定と一致しないLRフレームが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがホストモデムから受信したLRフレームが、クライアントモデムの設定と一致していないことが報告されました。
0 4x 5 50 4	MNP : ピアから、連続EC再送信回数の超過が報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムが受信したホストモデムからの連続再送信が多すぎることが報告されました。
0 4x 5 50 5	MNP : ピアから、無動作タイマのタイムアウトが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、タイムアウトまでの制限時間内にクライアントモデムがホスト(DTE)からデータを受信しなかったことが報告されました。
0 3x 5	MNP : ピアからエラーが報告されました。ホストモデムがクライアントモデムからLDフレームを受信しました。これにより、クライアントモデムがMNPプ

0 6	ロトコル エラーを受信したことが報告されました。
0 3 5 F F	正常なMNP切断ホスト モデムがクライアント モデムからLDフレームを受信しました。受信したLDフレームは、クライアントモデムのDTRがドロップしたか、+++またはATHコマンドを受信したことを示す、正常なMNP終了を示します。この切断理由は、コールセ ットアップ中およびデータモードで発生します (0x65FF、0x85FF、および0xA5FF)。ホスト モデム が正常終了を示すLDを受信しました。クライアント からの適正なクリアダウン (クライアント モデムか らホスト モデムへの切断パケットの送信など) によ り、コールは正常に終了しました。クライアント モ デムは DTR を廃棄し、クリアダウン プロトコルを正 常にネゴシエートしました。
<b>PIAFS相手側からの切断またはMICAプロトコル エラー の指示(クラス6)</b>	
0 3 6 4 x	MICAが、PIAFS DataLinkRelease (PDLR)を受信しま した。下位2桁xxが理由を示しています (詳細は下記 を参照)。
0 3 6 4 x	PIAFS DataLinkRelease (PDLR)の正常クラス : 0 - 正 常リリース1 - 正常リリース, データリンクの継続は禁 止2 - 正常リリース、データリンクは継続..... その他の 正常クラス?一部のクライアント機器に特定の未定義 クラス
0 3 6 4 x	PIAFS DLRリソース使用不能クラス(ビジー状態) : 8 - DTEビジー9 - 一時的な障害..... その他のリソース使用 不能クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定義 クラス
0 3 6 4 x	PIAFS DLRサービス利用不能クラス (不正パラメータ )9 - 要求パラメータ設定不能A - 現在、要求パラメー タ設定不能.... その他のサービス利用不能クラス - 一 部のクライアント機器に特定の未定義クラス
0 3 6 4 x	PIAFS DLR 1のサービス未提供クラス - まだパラメー タ表示は提供されていません。..... その他のサービス 未提供クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定 義クラス
0 3 6 4 x	PIAFS DLRの情報コンテンツクラスが無効です。8 - 端末属性が一致しません。..... その他の情報コンテン ツ無効クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定 義クラス
0 3 6 4 6	PIAFS DLR 0のシーケンスエラークラス - 必須パラメ ータが不十分です。1 - 情報コンテンツの未定義また は未提供5 - ARQコンディションおよび信号不一致6 - タイマのタイムアウト..... その他のシーケンス エラー

0	x	クラス - 一部のクライアント機器に特定の未定義クラス
0	3x	PIAFS DLR 1のその他の特殊性クラス - 音声コール中
6		。..... その他の特定クラス- 一部のクライアント機器
47		に特定の未定義クラス
x		
<b>ホスト/IOSによる切断要求(クラス31)</b>		
0	6x	ホストが切断を開始しました。値は、0x1F00 と
1		SessionStopCommand 値の合計です。ホストの終了
1f		理由を示します。下位2桁xxがホストの理由を示して
7	x	います。
x		
0	3x	ホストによる一般的な切断開始。値は、0x1F00 と
0		SessionStopCommand 値の合計です。IOSにより開
3		始された一般的な切断理由です。すべての非標準切断
x		に使用されます。たとえば、モデム管理ソフトウェア
1		の判断でコールが終了した場合などです。RADIUS、
6f		TACACS、またはホスト モデムに DTR ドロップを発
10		行する他のアプリケーションの高水準認証障害が考え
70		られます。このタイプの切断は、ホスト モデムがデ
0		ータモードの場合には、CSRとしてカウントされま
		せん。
0	x	ダイヤルした番号がビジーでした。ホストより、ダイ
3	1	ヤル番号がビジーであることが示され、コールが切断
f		されました。
0		
1		
0	x	ダイヤルした番号が応答しませんでした。ホストによ
3	1	り、ダイヤル番号から応答がないことが示され、コー
f		ルが切断されました。
0		
2		
0	3x	仮想DTRがドロップされました。これは、現在モデム
0		を使用しているI/Oポート リダイレクタのステータス
3		です。ホストが仮想DTR回線をドロップしたため、コ
x		ールが切断されました。Cisco IOSソフトウェアによ
1		り開始される一般的な切断の理由です。アイドル タ
6f		イムアウト、PPP LCP TERMREQ受信、認証の失敗
10		、Telnet切断などの原因が考えられます。切断理由を
73		特定するには、modem call-record terseコマンドまた
0		はAuthentication, Authorization, and Accounting
		(AAA)のRadius切断理由を調べてください。
0	6x	ローカル ホストにより、ATH (ハングアップ)コマン
1		ドが検出されました。
7f		
0		



## 切断理由：タイプ

disconnect reason:typesは、コールの接続解除が実際に発生したタイミングを示します。これらは、コールセットアップ中とデータモード中（定常状態）の2つの主なタイプに分類できます。次の表に、最も一般的な切断理由のタイプと、切断理由コードの値を示します。

切断理由コード (16進数)	説明
0x00..	(未使用)
0x12..	(未使用)
0x04..	その他の状況
0x36..	コールセットアップ中に発生
0x48..	データモードで、Rx（回線からホスト）データのフラッシュOK。データモードで発生した切断です。MICAは受信データをホスト（IOS）に転送しようとしています。一部の切断（PIAFSなど）では、これが唯一のデータモードタイプです。データ送信がOKかどうかは示されません。
0x5A..	データモードで、Rx（回線からホスト）データのフラッシュがOKではありません。データモードで発生した切断です。MICAは受信データをホスト（IOS）に転送しようとしています。旧MICAコードでは、これはタイプ4以上に相当します。IOSはこの切断を正常ではないと判断しますが、実際には問題はありません。
0x6C..	データモードで、TX（ホストから回線）データのフラッシュがOKです。データモードで発生した切断です。MICAは、バッファされているホスト（IOS）データを相手側モデムに転送しようとしています。
0x7E.	データモードで、TX（ホストから回線）データのフラッシュがOKでない。データモードで発生した



..	切断です。MICAは、バッファされているホスト ( IOS ) データを相手側モデムに転送しようとしています。旧MICAコードでは、これはタイプ6以上に相当します。IOSはこの切断を正常ではないと判断しますが、実際には問題はありません。
----	--

## [関連情報](#)

- [MICA ATコマンドセット](#)
- [PIAFSを使用したMICA ATコマンドセット](#)
- [MICAポートウェアリリースノート](#)
- [NextPort ATコマンドとSレジスタリファレンス](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)